



平成27年 2月

TRI 田尻総研 ものづくり大学大学院田尻研究室

1 | 5カ年事業策定の経緯

◎事業策定背景

平成23年度から10カ年にわたり、近年の行田市を取り巻く急激な変化に対応するため、①第5次行田市総合振興計画が策定されました。

平成25年度に様々な社会的問題や地域問題に対応するため、将来人口などの基本的な構想が大きく転換され、長期的なまちづくりの方針として②行田市都市計画マスタープランが策定されました。

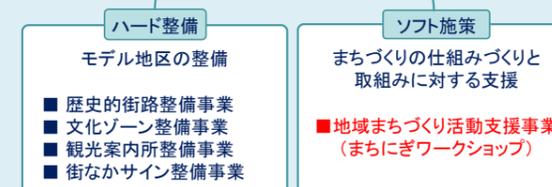
同年、③景観まちづくりワークショップにより、秩父鉄道行田市駅周辺地区に集積する歴史的建造物があるエリア(モデル地区)を対象とし、市民の皆様の意見から地区の問題点を抽出しました。

平成26年度にはマスタープランを実現するために、③景観まちづくりワークショップで集約した整備案を反映させ、④行田らしいまち並みとにぎわい創出基本計画が策定されました。

また平成26年度の⑤まち並みにぎわいワークショップでは、モデル地区の中でも特に重点整備検討地区とされる、蓮華寺と北谷通りのハード・ソフト面についてまちづくり方針を定めました。

平成27年度から5カ年にわたり、市民主体のまちづくりの仕組みづくりとして、⑤まちにぎワークショップが開催されました。

23年	①第5次行田市総合振興計画
25年	②行田市都市計画マスタープラン
	③景観まちづくりワークショップ
26年	④行田らしいまち並みとにぎわい創出基本計画
	⑤まち並みにぎわいワークショップ
27年	⑥秩父鉄道行田市駅周辺地区 都市再生整備計画(5カ年)



※5カ年事業の策定経緯



※平成26年度まちにぎワークショップの様子

2 | 5カ年事業の概要

◎背景と目的

まちにぎワークショップは「秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画」のソフト事業として、平成27年度から平成31年度までの5カ年にわたり継続して行うものです。5カ年のワークショップを通し行田市のまちづくりに必要なことを行政視点ではなく市民視点で検討し、最終的には市民主体によるまちづくり組織の設置・運営を目的としています。

また同時に、市民・来訪者の意識調査にて得られた基礎的情報や意見を、ワークショップの参考情報にすることや、今後の行田市のまちづくりへ活用することを目的としています。

◎5カ年事業の流れと各年度の目標

まちにぎワークショップでは初年度に市民主体組織の必要性を共有し、2年目には市民主体組織の設置を目標としています。3年目にはグループワークを通して試験的事業を設定し、実際に着手することを目標としており、4年目には試験的事業を継続的に良い運営を目標としています。最後の5年目には、いままでの試験的事業や組織の運営を総合的に評価・反省することで、自立した市民主体組織の継続的運営を目標としています。



※平成27年度のまちにぎワークショップの様子

27年度	市民主体組織の必要性を共有
28年度	市民主体組織のあり方の検討・設置
29年度	試験的事業の設定と着手
30年度	試験的事業の運営
31年度	試験的事業の事後評価

※まちにぎワークショップの5カ年の流れ

3 | 平成27年度 まちにぎワークショップの概要

◎平成27年度 まちにぎワークショップの目的

5カ年事業の初年度にあたる平成27年度のまちにぎワークショップでは、「行政の力ではなく、市民の力でできること」を前提とし、各回に設定されたいくつかのグループワークテーマについて、各グループが1つを担当し議論しました。

行田市が抱える地域問題についてワークショップを通して議論することで、行田市の現状や課題を共有認識し、市民が主体となったまちづくり組織の必要性について、ワークショップで意識の共有を図りました。

◎平成27年度 まちにぎワークショップの流れ

第1回まちにぎワークショップでは、行田市が抱える地域問題の現状と課題について意識を共有しました。

第2回では行田市の地域問題である「定住人口の減少」と「交流人口の減少」を、第3回では「まちづくりへの市民参画の減少」と「まち並み満足度の増加」について、各回とも各グループが1つのテーマを担当してワークを行いました。

第4回では平成27年度のまちにぎワークショップの総括として、これまでのグループワークの意見を参考に市民主体組織の必要性を確認しました。

運営協力	市民の皆様・ものづくり大学
調査目的	市民主体まちづくり活動の仕組みづくり
開催回数	全4回
通算参加人数	32人
開催場所	行田市商工センター 4階 403研修室

※平成27年度まちにぎワークショップ概要

第1回	現状認識と課題の共有
第2回	テーマA 定住人口 テーマB 交流人口 について検討
第3回	テーマC 市民参画 テーマD まち並み について検討
第4回	ワークショップの総括

※平成27年度 まちにぎワークショップの流れ

9 | 来訪者の分類別からみたまちづくり意識調査の結果まとめ

◎来訪者属性別の観光意識まとめ

行田市への来訪者を対象に行ったアンケートから、初めて行田市を訪れた来訪者を「初来訪者」とし、2回以上の来訪者を「再来訪者」とし定義し分析を行いました。

その結果、来訪者の来訪経験の有無による、行田市の観光面でのまちづくり意識を抽出することができました。

観光に関する意識を抽出した結果、来訪者の「行田市に来るきっかけ」や「来訪して満足した観光資源」、「行田市のまち並みに対する評価」、「行田市への観光に関する要望」を抽出することができました。

また、行田市への移住意向を把握することで、観光視点と移住先の視点から見た、まちづくり意識が抽出でき、このことから観光面でのまちづくりと、移住者を意識したまちづくりの課題と方向性が明らかになりました。

調査項目	初来訪者	再来訪者
認知方法	小説・映画「のぼうの城」 インターネット	お祭りなどイベント
満足した観光資源	忍城社・郷土博物館	さきたま古墳群 忍城社・郷土博物館 古代蓮の里
まちなみ満足度	高	公園や緑地の整備・確保
	低	コミュニティの場
要望	観光案内をわかりやすくする	市街地の美しさや快適性 秩父鉄道の利便性
来訪意向	低い	高い
移住意向	低い	高い

※来訪者属性別の観光意識のまとめ

10 | 今後の取り組み予定

◎平成28年度まちにぎワークショップ

平成27年度のまちにぎワークショップでは全4回のグループワークを通して、行田市の地域問題に対する具体的な解決案を抽出することができ、また市民主体組織の必要性を共有することができました。

平成28年度のまちにぎワークショップでは、市民主体組織のあり方をグループワークで検討し、市民主体組織の設立を目標とします。

27年度	市民主体組織の必要性を共有
28年度	市民主体組織のあり方の検討・設置
29年度	試験的事業の設定と着手
30年度	試験的事業の運営
31年度	試験的事業の事後評価

※まちにぎワークショップの5カ年の流れ

◎市民・来訪者意識調査

行田市民や来訪者を対象に行った意識調査にて得られた基礎的情報や意見を、今後のワークショップや行田市のまちづくりへ活用することを目的とし、平成27年度から平成31年度まで5カ年にわたり継続して意識調査を行います。

調査を5カ年間継続して行うことで、市民の皆様と来訪者の意見を集約し、行田市のまちづくりに関する意識の変化を調査します。



7 | 行田市民と来訪者からみたまちづくり意識調査の結果まとめ

◎市民と来訪者の課題別まちづくり意識まとめ

市民と来訪者を対象に行田市のまちづくりに関する意識調査を実施しました。

市民と来訪者のまちづくりに関する意識を抽出することで、市民の行田市に関する主観的な意見に加え、来訪者から見た客観的な意見の抽出をすることができました。両視点から行田市のまちづくり意識を抽出することで、行田市のまちづくりに関する意見を多角的に見ることができました。

その結果、「行田市のまち並みの満足点・不満点」や「行田市の定住意向や、居住する上で必要な条件」、「行田市における観光面での改善点」、「市民のまちづくり活動に対する参加意向」などの、平成27年度まちにぎワークショップにて議論された「定住人口」「交流人口」「市民参画」「まち並み」の4つの地域問題に関する、市民と来訪者のまちづくり意識を抽出することができました。

調査項目		行田市民	来訪者
まち並み	満足点	まちの安全	観光PR
	不満点	公園整備 観光PR	まちの安全
定住人口	行田市定住意向	住みたい(81%)	住んでみたい(30%)
	移住条件	自然環境の良さ	自然環境の良さ
交流人口	観光の改善点	行田市内を巡る 移動手段の充実	博物館や展示館 の充実
市民参画	市民活動	行っていない(48%)	
	活動意向	機会があれば行いたい	

※行田市の地域問題に関するまちづくり意向のまとめ

8 | 行田市民の分類別からみた意識調査の結果まとめ

◎市民属性別のまちづくり意識まとめ

行田市民を対象に行ったアンケートから、アンケート回答者を都市再生整備計画の事業対象地区に住む市民と、事業対象地区外に住む市民の2つに分類し、それぞれ「事業対象地区住民」と「事業対象地区外住民」と定義して分析を行いました。

その結果比較的整備が進んでいる地区に住む事業対象地区住民の意見と、比較的まだ整備が進んでいない地区に住む対象地区外住民の、まちづくり意識と、その相違を抽出することができました。

また、事業対象地区別に市民の意識を抽出することで両視点から見た、「行田市のまちづくりの現状や課題」、「行田市のまちづくりに必要なもの」、「行田市の目指すべきまちづくりの方向性」などのまちづくり意向が明らかになりました。

調査項目		事業対象地区住民	事業対象地区外住民
まち並み評価	定住意向(高)	暮らしの快適性	交通インフラ
	定住意向(低)	教育文化	医療福祉
まちづくりに必要なもの	まちづくり(高評価)	地域活動参加の きっかけづくり	まちづくりや地域活動の リーダー育成
	まちづくり(低評価)	興味を持てる イベントや企画の実施	地域活動参加の きっかけづくり
まちづくりの方向性	地域活動意向(高)	観光の発展	商業の発展
	地域活動意向(低)	観光の発展	観光の発展

※市民属性別のまち並み意識のまとめ

4 | ワークショップのグループワーク結果

◎第1回まちにぎワークショップ

第1回まちにぎワークショップでは、行田市の現状や課題についてパワーポイントを利用して情報共有を行い、ワークショップ参加者を4~6のグループに分け、顔合わせをかねて自己紹介を行いました。

◎第2回まちにぎワークショップ

第2回まちにぎワークショップでは「定住人口」と「交流人口」の2つのテーマについてワークをしました。

テーマAの「定住人口」では、若者と子育て世代の女性に魅力的なまちづくりを進めるといった、若年者を意識したまちづくりへの意見が得られました。

テーマBの「交流人口」では行田市の観光資源を活かしたイベントや、点在する観光資源を巡る周遊ルートの作成など、既存の観光資源を活用するような意見が得られました。

◎第3回まちにぎワークショップ

第3回まちにぎワークショップでは「市民のまちづくり参画」と「まち並み」の2つのテーマについてワークをしました。

テーマCの「市民参画」では若者や女性、または個々で活動する団体などの、交流の場やきっかけを増やすような意見が得られました。

テーマDの「まち並み」では、シャッター通りや空き地などの使用されていないスペースの有効活用方法や、まち並み景観に関する意見が得られました。

◎第4回まちにぎワークショップ

第4回まちにぎワークショップでは「行田市の市民主体組織のスタイルとあり方」についてワークしました。第4回のワークテーマは平成28年度のまちにぎワークショップの目的である、「市民主体組織のあり方の検討・設置」に繋がるグループワークです。

グループワークを行った結果、既存の市民団体や自治会などを軸とした幅広い年代の有志を募ったまちづくり団体と、まちづくり会社のような営利を目的とした団体の、2つの傾向を有した意見が得られました。



※グループワーク発表の様子

テーマA【定住人口】人口減少を止めるには？

- 育児に関わる支援を増やし子育て世代の定住を促進
- 団体が新しいイベントを催して市民がサポートする
- テナント作り、若者向け店舗を増やして若者の流出防止
- ものづくり大学生と一緒に行田の教育環境を強化

テーマB【交流人口】観光客等を増やすには？

- 観光系団体が協力し観光PRや市内散策ルートを作成
- まちづくり活動を行っている市民全体で観光客の誘致
- 行田市の歴史や文化を、市民団体が来訪者に周知
- 市民大学などを主体にイベントを長期的に行う

※第2回まちにぎワークショップ 意見一例

テーマC【市民参画】市民参画を増やすには？

- 若い人・女性がまちづくりに参加しやすい場・団体を作る
- 個々での活動が多い各団体をまとめる組織を作る
- 市民団体が団結し、若い人を育成し目的を与える
- フリー会議室を作り市民のコミュニティスペースにする

テーマD【まち並み】まち並みはどうあるべきか？

- 売る側と買う側が自然と交流できるようなまち
- まちづくり団体が空き店舗などの管理・活用を行う
- 空き家に学生を呼び込み賃料を安く提供する
- まち並みの整備や景観に関する取り組みを行う

※第3回まちにぎワークショップ 意見一例

【市民主体組織】行田市の市民主体組織のスタイルとあり方

- 年代が異なる、やる気ある有志が集まる団体
- 核となる市民組織を基に市民をあつめる
- 団体同士の繋がりを強くし、思いを共有できる場
- 地域特性を活かした団体
- 各地域の問題に取り組む営利目的の新規団体

※第4回まちにぎワークショップ 意見一例

5 | 行田市民意識調査の結果

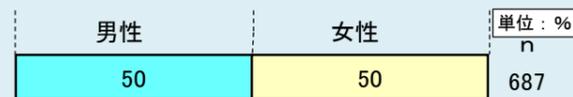
◎市民意識調査の概要

「秩父鉄道行田市駅周辺地区都市再生整備計画」で定められている、秩父鉄道行田市駅周辺の歴史的建造物が集積するエリアを事業対象地区と定義し、事業対象地区内に住む市民と、事業対象地区外に住む市民の皆様に、まちづくりに関する意向を抽出することを目的に調査を行いました。

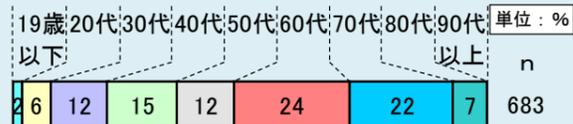
また事業対象地区内の調査では、事業対象地区内にある全てのご家庭にアンケート調査用紙をポスティングにて配布し、事業対象地区外の調査では、地域や回答者の年代から広く意見が抽出できるように市民の皆様へアンケート調査用紙を郵送配布しました。

調査対象	事業対象地区の市民	事業対象地区外の市民
調査方法	アンケート方式による調査	
配布方法	ポスティング	郵送配布
回収方法	郵送回収	郵送回収
回収部数	237部	275部
配布部数	1100部	1530部
回収率	21.5%	18.0%

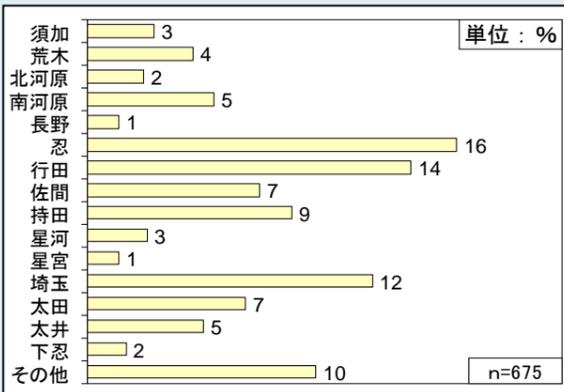
※行田市民まちづくり意識調査の概要



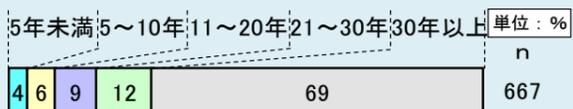
※アンケート回答者の性別



※アンケート回答者の年代



※アンケート回答者の居住区



※アンケート回答者の行田居住年数



※アンケート用紙配布時の様子

◎市民の皆様のご自由意見

アンケート調査より、市民の皆様から247件の自由意見を頂きました。寄せられた意見の多くは行田市の現状に関する改善点の指摘と、それに伴う具体的な改善提案の意見が多く見受けられました。

- 店が少ないので市外へ行く。お店を増やして欲しい
- 市民が団結すればもっと効果的に進めたいと思います
- ゆるキャラが充実しているが1つに絞ってはいかがか
- まちづくりの宣伝不足。行政が市民にするのではなく一緒に協力してまちづくりをする体制作りはどうでしょう

※アンケート用紙に寄せられた自由意見の一例

6 | 来訪者意識調査の結果

◎来訪者意識調査の概要

行田市で開催された「みずしろフェスタ」と「わらアート」の2つのイベントにおいて、イベント開催地とその周辺道路で、行田市外からイベントを訪れる来訪者を対象に、アンケート調査を行いました。

また調査を行うにあたりイベント来訪者の居住地を確認することで行田市外からの来訪者のみを抽出し、回収した合計149部のアンケート用紙から分析を行いました。

◎来訪者の基礎属性

アンケート調査にご協力いただいた来訪者の性別は、男性女性ともに約50%となりました。また、来訪者の年代は約半数が60代以上でしたが、幅広い年齢層から意見を抽出することができました。

来訪者の行田市への来訪回数が「5回以上」と答えた方が約半数に至りました。また初めて行田市を訪れたと答える来訪者が30%を超えました。

来訪者の行田市で滞在時間は「数時間から半日」が最も多く、全体の約80%となりました。行田市への観光ではなくイベントの開催時間に合わせて来訪した結果がグラフに反映されたと考えられます。また「1泊以上」と答えたのは3%となりました。

行田市で使用した金額は「1～5千円」と回答した来訪者の割合が一番大きい結果となりました。

行田市への再来訪意向は93%の人が「また来たい」という結果となり、来訪者からの評価が高い結果となりました。



※来訪者アンケートの調査風景

◎来訪者の自由意見

来訪者から寄せられた自由意見は全体的に行田市に肯定的な意見が多く見受けられました。

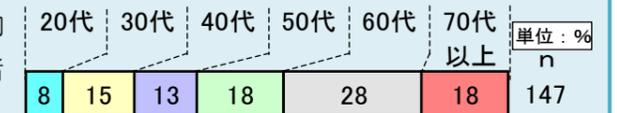
しかし観光面での改善点も少なくはなく、現状のまちづくりに対する共通した不満点が見受けられました。

調査会場	みずしろフェスタ	わらアート
調査方法	アンケート方式による調査	
配布方法	直接配布	直接記入 直接配布
回収方法	郵送回収	直接回収 郵送回収
回収部数	75部	74部
配布部数	190部	80部
回収率	39.5%	92.5%

※行田市来訪者まちづくり意識調査の概要



※来訪者の性別



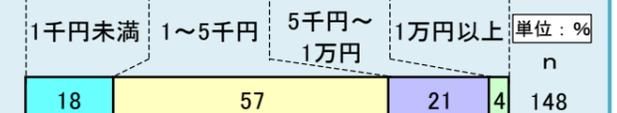
※来訪者の年代



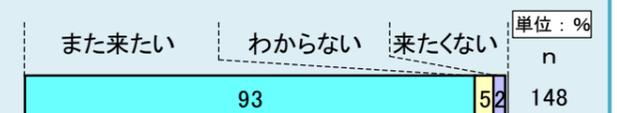
※来訪者の行田市来訪回数



※来訪者の行田市滞在時間



※行田市で使用した金額



※行田市への再来訪意向

- 古墳群や博物館は国内でも一級品
- 駐車場が少なく探すのに苦労しました
- 忍城・郷土博物館が良かったです！
- 観光地周辺に飲食店やお土産を買える場所がない
- バスのダイヤを増やしてほしい

※アンケート用紙に寄せられた自由意見の一例